

ひと
女ひと
男

男女が共に生きるメッセージ



パートナーシップ

問合せ先 秘書広報課男女共同参画推進室 ☎72-2111

多様な視点で災害に備えよう

地域には、さまざまな性別や年齢、生活背景の人が生活しており、緊急時に必要とする物資やサービスも異なります。多様なニーズに応えられるよう、日頃から多様な視点で地域を見ておくことが必要です。

今回は、災害に備えて日頃から考えておきたいことを紹介します。



防災訓練

- 「男性がテント張り、女性が炊き出し」のように、性別で役割を固定するのではなく、個人の能力や得意分野をふまえた配置を考えましょう。
- 多様なニーズに応じた訓練を実施しましょう。子ども、高齢者、障がい者、外国人などさまざまな人が参加できる工夫をしましょう。

避難所運営

- 責任者や運営メンバーに男女を配置して、視点が偏らないようにしましょう。
- さまざまな人に配慮し、安全・安心が守られる空間を確保しましょう。虐待やDVの被害者が、より困難な立場に置かれることもあります。気づいたことがあれば、すぐに専門の相談機関に相談しましょう。

防災備蓄品・資材

- 多様なニーズに沿った備蓄品になっていますか。女性用品、乳幼児用品、介護用品などの備えも必要になります。
- 誰もが使いやすい防災資材を準備しておきましょう。
- 誰がどのような支援物資を必要としているか気づきやすくするために、担当者に男女をともに配置しましょう。

地域の備え

- 地域の活動には、男女がともに参画できていますか。みんなが関わることで一人ひとりの負担を軽くすることができます。
- 日頃からの地域のネットワークを大切に、災害時にスムーズな支援活動ができるようにしておきましょう。



多様な人々への配慮を考えるうえで、男女共同参画の視点も欠かせないもののひとつです。日頃から家庭や地域、職場などで、性別に関係なく、互いに支え合う環境づくりに努めましょう。

参考：「地域の防災力×男女共同参画の視点」
石巻市 復興政策部 地域協働課
「女性の視点からの防災対策のススメ」
大分県 生活環境部 県民生活・男女共同参画課



おごおり女性ホットライン ☎092-513-7337

月～金曜日／午前10時～午後5時(祝日、12月29日～1月3日を除く)

配偶者や恋人からの暴力についての相談のほか、セクシュアル・ハラスメントや仕事、地域、家庭のことなどさまざまな悩みに、専門の相談員が対応します。



配偶者や恋人からの暴力に悩んでいませんか？
ひとりで悩まずに相談してください。

